

奈良時代の軍団施設跡か

熊谷遺跡 雲南市三刀屋町 1999年（平成11年） 林 健亮

天平5(733)年に記された『出雲国風土記』には、「軍団」という記載があり、奈良時代の飯石郡に熊谷軍団と呼ばれる軍隊の施設が存在したことがわかります。しかし、実際の遺跡は判明しておらず、具体的な位置も、どのような施設があったのかもわかりません。

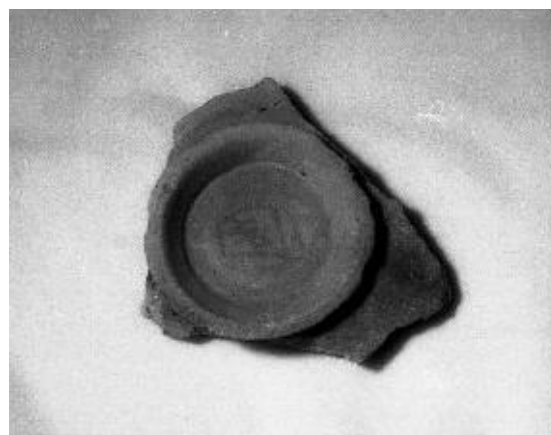
熊谷軍団は、『出雲国風土記』に書かれている里程から、斐伊川の川辺近くにあったことは間違いなく、現在の地名からも雲南市三刀屋町下熊谷付近に存在したと考えられています。松江自動車道の建設に先立つ熊谷遺跡の発掘調査では、この周辺を広く発掘する計

画だったことから、熊谷軍団に関わる施設の発見が期待されていました。

結論から言うと、この発掘調査でも、確実な軍団の痕跡を捉えることはできませんでしたが、もしかしたら、軍団の発見に繋がる小さな糸口を掴んだのかもしれない。ひとつは、標高約130mの丘陵の頂上から奈良時代の土器が出土したことです。生活するにはあまりに不便な場所ですが、眼下には斐伊川と三刀屋川の合流点が望め、奈良時代にはこの下を幹線



調査当時の空中写真。画面下方が熊谷遺跡。遺跡の北には斐伊川と三刀屋川の合流点を見下ろします



クニガコミの漢字一文字が記された墨書土器。

国それとも団？

道路が通っていたはずですが。見張りには適した場所なので、軍団の施設があった可能性があります。また、もう1点は墨書土器が発見されたこと。須恵器の蓋に漢字1字が記されたもので、四角い枠の中にぐしゃぐしゃと書かれた文字でした。発掘調査報告書では「国」と判読しており、その意味はわかりませんが、文字を記した土器がある以上、近くに(軍団の?)役所があったに違いありません。

松江市や出雲市には、軍団の原に通じる「団原(段原)」の地名が残されており、練兵場があったとする説がありますが、遺跡としては判明していません。また、松江市福原町の芝原遺跡では、軍団の階級の一つである「校尉(こうい)」と記された墨書土器が出土していますが、『出雲国風土記』に記される軍団からの距離が遠く、関係が判りません。熊谷遺跡は、文献や地名と出土した土器の双方から、古代の軍団に近づける遺跡と言え、この近くで、きっと古代の軍団を見つけることができるはずです。

ところで、報告書を作成した際には「国」と読んだ墨書土器ですが、近年になって、違う見解も示されています。「団」と読むのではないかと、言うもので、もし軍団の団であれば、実は、まぼろしの熊谷軍団の一角を捉えていたのかもしれない。

(島根県埋蔵文化財調査センター 調査第1課長)

ひとくち情報：熊谷遺跡は、現在の松江自動車道三刀屋木次インターチェンジ本線の料金所付近にあった遺跡。発掘調査では、奈良時代の遺物の他に、古墳2基が発見されており、直径5センチに満たない県内最小級の銅鏡や、メノウ製の勾玉が出土した。